

## 第1回寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会記録（要点筆記）

### 1 日時

令和2年10月20日（火）14時30分から16時10分

### 2 場所

寝屋川市役所議会棟5階 第二委員会室

### 3 当日の参加者等

#### (1) 出席委員（10名）

日浦委員（委員長）、竹内委員（副委員長）、青木委員、名畑委員、乾委員、  
有山委員、池峯委員、九條委員、田中委員、新宮委員

#### (2) 事務局（8名）

（こども部） 畑中部長

（保育課） 中村次長、吉田課長代理、田中副係長

（学校教育部） 田井教育監

（学務課） 中村課長、牧野係長、高見係長

#### (3) 傍聴（0名）

### 4 会議次第

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 会議の公開について

(3) 寝屋川市立幼稚園・保育所の現状と課題について

(4) その他

## 要点筆記

### 【1 開会】

(事務局)

ただ今から、寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会委員委嘱状及び任命状交付式並びに第1回審議会を開催いたします。

はじめに、寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会委員の委嘱状及び任命状交付式を行います。

委員の委嘱及び任命期間は、寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会規則第4条第1項に基づき本日、令和2年10月20日から令和4年3月31日まででございます。

教育長より委嘱状及び任命状を交付させていただきますので、お名前をお呼びいたしましたら、恐れ入りますが、前へお進み願います。

(教育長より委員7名に対し委嘱状を交付)

(事務局)

続きまして、任命状の交付を行います。お名前をお呼びいたしましたら、恐れ入りますが、前へお進み願います。

(教育長より委員3名に対し任命状を交付)

(事務局)

以上をもちまして、委嘱状及び任命状の交付式を終了いたします。

それでは、続きまして、第1回寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会を開催させていただきます。

開会に先立ち、寝屋川市教育委員会 高須教育長よりご挨拶申し上げます。

(教育長挨拶)

(事務局)

本日は、第1回の寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会でございますので、委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

(委員 10 名自己紹介)

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。

(事務局 8 名紹介)

(事務局)

高須教育長におきましては、このあと公務が入っておりますので、ここで失礼させていただきますが、ご了承いただきますよう、お願いいたします。

(教育長退席)

(事務局)

それでは、議題に移らせていただきます。

今回は、委員委嘱・任命後の最初の会議でございますので、委員長が選出されるまでの間、事務局で議事を進行いたします。

まず、議題に入ります前に、本審議会の成立について事務局より報告させていただきます。

本日は、委員 10 名中 10 名出席いただいております。従いまして、委員総数の半数以上の出席がございますので、本審議会規則第 6 条第 2 項の規定に基づきまして、本審議会が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、議題に移ります前に、資料の確認をさせていただきます。

(配布資料確認)

(事務局)

議題(1)委員長及び副委員長の選出についてでございますが、まず、委員長の選出をお願いいたします。委員長の選任につきましては、本審議会規則第 5 条第 1 項の規定により、委員の皆様との互選によりこれらを定めることとなっております。

(委員の互選により日浦委員が委員長に就任)

(事務局)

それでは、日浦委員に委員長をお願いしたいと思います。早速ではございますが、委員長に会議の進行をお任せしたいと思います。日浦委員、委員長席の方へお願いいたします。

それでは委員長の日浦委員より一言ご挨拶いただきたいと思います。

(日浦委員長挨拶)

(委員の互選により竹内委員が副委員長に就任)

(委員長)

それでは副委員長につきましては竹内委員を選出するという進めさせていただきます。竹内委員は副委員長席の方へお願いいたします。

それでは副委員長の竹内委員より一言ご挨拶いただきたいと思います。

(竹内副委員長挨拶)

(委員長)

それでは議題(2)に移ります。議題(2)会議の公開について、事務局からの説明をお願いします。

(事務局)

寝屋川市では、市民参画の推進と市政運営の透明性の向上を目的に、参考資料3 寝屋川市審議会等の設置、運営及び公開に関する指針を策定し、委員会等における会議は原則公開するものとしております。

なお、指針の8項にありますように、7項第3号に規定する非公開の決定は、審議会委員長が会議に諮って行うことになっておりますがいかがでしょうか。

(委員長)

会議の公開につきまして、事務局からの説明がありました。原則通り公開ということよろしいでしょうか。

(委員より異議なしの声あり)

(委員長)

それでは本審議会は公開とさせていただきます。傍聴はございますか。

(事務局)

現在傍聴の申し出はございません。

(委員長)

傍聴はございませんので、議事を進めてまいりたいと思います。続きまして、議題(3)寝屋川市立幼稚園・保育所の現状と課題について、事務局からの説明をお願いします。

(事務局)

それでは、寝屋川市立幼稚園・保育所の現状と課題について、ご説明させていただきます。

(資料1 寝屋川市立幼稚園・保育所の現状と課題を説明)

(委員長)

寝屋川市立幼稚園・保育園の現状と課題について資料に基づき説明がありました。第一回目のこの審議会の会議の目的は、今説明がありましたことを中心にして課題と問題意識を共有することを今日の目的としたいと思います。今の説明に対してどんな細かい点でも結構ですのでご質問等がございましたらお伺いしたいと思います。何かありますでしょうか。

(委員)

今数量的な問題はこれで理解できたのですが役割的な部分というのが明記されていない。市立保育所、市立幼稚園、民間保育園、私立幼稚園の役割という部分についてはどのように考えているのか。

(委員長)

今のご質問についてお答えいただきます。

(事務局)

市立幼稚園につきましては、地域の幼稚園として、地域の人材の方、地域の資源を活用して、特色ある幼稚園づくりを進めているところでございます。

保育所につきましては、市立保育所と民間保育園で協力しながら児童の受け入れをさせていただいているのですが、現時点ということで申しますと市立保育所の方が要保護とか要支援家庭の部分におきまして、受け入れが多くなっています。そういった意味でそこは市立保育所の方が中心となって果たすべき役割と考えております。

(委員長)

ありがとうございます。その他何かご質問はありますでしょうか。

(委員)

私は市立保育所で勤務していますが、事務局から説明があったように、市立保育所としては要保護家庭、それから障害のある子どもの受け入れについて、保育所によって若干の人数割合の違いはあるのですが、地域の特色も多少出しながら、6所共通の認識を持ち保育をすすめています。

(委員長)

ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。

(委員)

市立幼稚園は地域密着という形と近隣の小学校とも関わりを強く持って保育しています。

(委員長)

ありがとうございました。その他、説明について、資料に関連したことについてでも結構ですがいかがでしょうか。

(委員)

説明を聞く限り子どもの数が減っているということと、子どもの数は減っているが働く女性が増えているので保育人数は増えていくのではないかということがありました。

(委員)

資料をいただきまして幼稚園児の減少、子どもの減少というものが出ているが、今年はコロナ渦の中で父親の収入が減って、母親が働きに出ることにより子どもを預ける際に幼稚園ではなく、保育所に預けるといふところが増えていると実感しています。

寝屋川市の現状での課題ということですが、大阪市内は大きな小学校ができた、地価の下落によりマンションの値段が下がったことにより需要も増えている。また、魅力があるから人が増えている現状です。寝屋川市内では今後子どもが増える要因が私の中ではない。例えば駅前開発で大きなマンションができていくとか、どこかに子どもを育てやすい施設ができていくとか、そういう展望がないように思える。その中で今からの幼稚園保育所の在り方ということですが、先が見えない状態で子どもが減っている。まず子どもを増やすように市としてどういう対策をとっていけばいいかというのが、これよりも先にすべきではないかと私は

思って今日参加しました。幼稚園では子どもが減っており、働く女性は増えている。保育所に預けたい方が多くなっているという現状を踏まえて、なおかつ先の展望をもう少し市としてお考えになっていただけたほうがありがたいと思います。

(委員長)

ご意見ありがとうございます。資料でも寝屋川市の人口が減っていると出ていると思うのですが、事務局で市の人口にまつわることで何か対策、改善があれば教えていただけたらと思います。

(事務局)

本市としましては教育改革を推進しまして”寝屋川市”だから学ぶことができる教育内容、教育現場等の実現を目指しておりまして、市としましては市の実状に応じた教育、学術、及び文化の振興に関する総合的な施策として教育大綱というものを定めております。その大綱をもとに”寝屋川”だから学べるという基本理念のもとに二つの大きな柱を定めさせていただいております。一点目が考える力の確立。二点目が特色ある寝屋川教育の確立。寝屋川だから学べる教育を推進することにより子育て世代の方にぜひ寝屋川市で教育を受けたい、学びたいと思っていただけるような施策等を進めているところでございます。こちらにつきましてはホームページ等でも公開はしているのですが、審議の中で一度見ていただけたらと思いますので、もし情報提供という形で次回の審議会に提供させていただくことも可能です。

(委員長)

次回の資料として提供していただけたらと思います。よろしく申し上げます。他にはいかがでしょうか。

(委員)

資料の説明については数値を改めて見て、これだけの大きな減少があるのだなということと、寝屋川市が今どうかということを見ると学校としては先ほど寝屋川方式の話もありましたが、寝屋川市は教育を売りにしていくところや、子どもの安心安全という観点ではいじめに関する部署を作って学校、子ども支援とか施策としては教育・子どもに着目をした色々な取り組みがございます。学校としてはいろいろなことに追いついていくように頑張っている現状だと思います。そのことがどのように人口増加に結び付いていくかというのはなかなか分かりにくいところです。教育内容というのはなかなか目立たないところではございますので、まちづくりだとかそういう部分も市としてはもっと出していただけたらと思います。私ができることは、資料でもでてきましたが女性の働く機会が増加してきており、保護者の方の多くは働いておられるものという前提でいろいろな活

動をしていかないと学校は成り立たないです。それから学校だけでなく保護者の方も助けていただいているのが地域と認識しておりまして、小学校としてそこはありがたく感じています。そのように地域とも連携しながらどのように就学前から小学校につないでいくかとか、教育内容をどのようにしていくようなことが課題になっていくのかと思ひながら聞かせていただいております。

(委員長)

ありがとうございます。先程の委員のご質問とも関連するのですが、教育に力を入れている市なのですがそれは目に見えにくいので、市が活気をもって暮らせる素敵なまちというアピールはどういうことをしてますかということが質問に入っていたと思うのですが、ここは教育・保育のことを話し合う場ですが、何か施策があるのでしょうか。教育は言ってくださったように見えにくい部分もありますが、ここにいる方々は寝屋川市が教育に力を入れているということをよく分かっていると思います。他に何か市の施策として人口を増やすプロジェクトのようなことがあるのですか。

(事務局)

現在第四中学校区におきまして、施設一体型の小中一貫校の設置を進めているところでございます。また、駅前周辺のまちづくりを積極的に進める中でひとつの特徴として施設一体型の小中一貫校を設置させていただく。その中で子育て世代に来ていただき、人口の増加につなげるといいますか、魅力ある寝屋川市になるためのひとつの施策としてそういうことを進めさせていただいております。

(委員長)

それはホームページにも載っているのですか。

(事務局)

現状ここまで進んでいますとか説明会をこういう形で開催しましたというものもホームページ上で公開させていただいております。

(委員長)

その他何かございますでしょうか。

(委員)

資料を拝見いたしまして、これから言えることはほかの委員もおっしゃっていますように、このままほっておけない状況がこの数字から読み取れると思います。先ほど委員長がおっしゃったように私も少子化を止めるための施策と言いますか、市が努力されていることは重々承知しておりますが、少子化の歯止めをきかせる



にはどうしたらいいかというのは大きな課題と思います。すぐにとはいかないと思うのですが、寝屋川市に住みたいと魅力を感じることができる教育、そしてできましたら大型施設だとか若者が集まるような状況を市全体で作っていかないと少子化は止められないと危惧しております。私も地域の人間として就学前施設・小中学校の先生方が本当に努力されて頑張っていることに、寝屋川市には誇れる人材がたくさんいると感じております。夢をもって寝屋川市が活性していくようにと微力ではございますが思っております。

(委員長)

ありがとうございます。資料の質問ということでございましたが、教育の内容についてみなさんと協議したいと思うのですが、委員の皆様のそれぞれのお立場から教育内容で課題になっていると思うことをお聞かせいただけたらと思います。

(委員)

私自身が考えるところですが就学前施設と小学校の接続というものが重要になってくると思います。この部分は先ほどの話にも少し関連しますが、局地に人が集まっても寝屋川市全体としての底上げにはなりにくいと思います。人を集めればいいということだけではなく人が長く寝屋川市に居続けるために市全体の施策というものが必要と思います。デパートができた、何かができたからといってそれで人が集まったとしても言い方は悪いですがただの客寄せぐらいのものにしかならない。やはり寝屋川市の教育というものを可視化してそれにきちんとした実績をつけないと人っていうものはやはりここに住み続けたいという風には思わないと思います。そのためには寝屋川市というものの情報発信も一面では大事なのですが、やはり実働のあるものとして教育の可視化をしていかないといけないと思います。ディベートを小学校4年生からしますよというような話をしていますが、それほど浸透しているかどうか、まだこれからの話だと思います。市のホームページ等を拝見すると小学校からの教育についてはいろいろと論じられている部分とか、実際に各論として実働があるものとして展開が書かれているのですが、就学前の教育についてはまだ触れられてる部分が少ないと思います。まずは乳幼児期の子どもたちが寝屋川市に住んでそのまま小学校に上がっていけば寝屋川市に住んでよかったなと思えるようになれば教育ブランドになると思いますので、小学校からではなく私の立場からすると乳幼児期も含めた包括的な教育政策というのを考えていただけるようお願いできないかと思えます。

(委員長)

ありがとうございます。就学前教育の可視化ということが一般の市民の方に分かりにくい、可視化が十分にできてないことが課題だということですね。

(委員)

就学前については数量とかの話が前にも出てきましたが、何をどうするのか、批判しているわけではありませんが、小学校からはいろんなことを教育ブランドとして取り組んでいることが見えてくるのですが、少し就学前が切り離されていると感じています。昨今就学前教育が大事だということをようやく国が言い出したので、市も就学前教育を小学校からの教育にまとめて考えていただきたいです。乳幼児期に寝屋川市内の就学前施設に行けば小学校に段差なく上がれ、本当に子どもたちにとって良い教育なんですよってというようなところを学校の先生方と、私たち乳幼児教育者が一緒になって研修を行うとか、実際にはいろいろと論じ上げてはいますが、実働としてはなかなかそぐわないといえますか、見えない部分もありますのでそういうものを継続化していけば少し前進するのではないかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。就学前就学後で切り分けることも意味がないわけではございませんが、一人の子どもが地域で長いスパンで育っていくその視点が必要でそのことが分かりやすくなって寝屋川市に住んで子育てしてよかったと思えるような見せ方が必要だというご意見です。

(委員)

市立幼稚園の当事者としてこの数字を見る限りとても悲しい数字になっています。5年前の市立北幼稚園の数字でいきますと300人以上在園していましたが、約三分の一になっているという現状がございます。基本的に市立幼稚園に来られている方はお仕事をされていない方が大半です。されているとしましても午後2時半にはお迎えに来られるという状況で、午前中だけお仕事したりとか、お迎えの後、祖父母に預かってもらって夕方以降にお仕事されるという方も中にはいらっしゃいます。保護者の方からちらほら聞こえてくる声は、市立幼稚園は給食がないので、お弁当がネックという保護者もたくさんいらっしゃいます。また、預かり保育がない、3年保育でないことも聞こえてきます。保護者の方からは早く預けてお仕事したいという声もございますが、市立幼稚園を選んで来られている方の多くはお仕事されていない保護者で、市立幼稚園がいいと選んできてくださっているのです、ありがたいと思っています。市立幼稚園の良いところは小学校との連携を密にしているところと思うので、小学校1年に上がるときに安心してスムーズにいけるところは力を入れていることなのでそこは大事にしていきたいです。

(委員長)

ありがとうございます。今、委員が市立幼稚園の良いところを言ってください

ました。他に何かございますか。

(委員)

市立幼稚園では小学校に入学するまでに、小学校のお兄ちゃんお姉ちゃんがこんなことするのだよとか見せていただく機会があったのでそれはありがたいなと思います。

(委員長)

小学校と密接に繋がっているのを実感されたんですね。

(委員)

給食とか一緒に食べさせてもらったり、小学校だけでなく地域のおじいさんおばあさんとか、そういう触れ合いもありますし、そこはいいと思います。

(委員長)

私立幼稚園がこれらのことをしていないわけではないと思うのですが、特に意識して行っているのでしょうか。

(委員)

そうですね。地域の方にすごく見守られていろんな活動をしています。あと教育面の交流では、小学校の先生と市立幼稚園の教員が合同で教育研究も行っているのもこれは良いところと思っています。

(委員長)

私立公立に関係なく子どもの数が減っていますが、教育内容として以前より課題になっていると感じていることがあれば教えてください。

(委員)

保育所は0歳から入所可能です。子育て支援関連の仕事をしたこともございまして、その時、働くお母さんがすごく増えていると感じていました。働きに行きたい保育所に預けたいというお母さんがたくさんいるのは実感していました。現在保育施設では待機児童ZEROプランRで民間保育園の協力もいただきながら、働くお母さんがスムーズに保育所に預けることができるようにというところは上手くいっているのではないかと考えています。入所された子どもを0歳から計画を立てながら日々保育を行っています。先程委員がおっしゃっていた就学前の教育のことも考えていながら保育も組み立てていますが、その就学前の保育でどんな力を付けていきたいのか、どんな力が必要なのか、小学校に上がるにあたってこういう力を付けていきたいというところの課題・認識を寝屋川市全体で

はっきりとプランを持って小学校の先生たちの意見も聞きながら、これらを組み立てていくのがすごく大切だと思います。接続の部分ではまだまだ不足している部分があるかもしれないですが、5歳児交流というものが地域ごとで行われていまして、各所園の5歳児の子どもたちが交流しながら自分たちの保育所だけではなく寝屋川市にはいろいろなお友達がいることを知るための交流です。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、あまりできていない現状ですが、例年は交流しながら小学校に向けての意識付けを行っています。市立保育所は、市立幼稚園みたいな小学校との交流は難しいのですが、小学校見学をさせていただいてそこでイメージをつかむことをさせていただいています。このあたりで、小学校の先生と教育の課題や保育の課題をもう少し深めていく必要があると思っています。

(委員長)

ありがとうございます。就学前教育・保育の取り組みについてどういうことを市が行っているかの資料はございますか。

(事務局)

教育委員会では以前、寝屋川市小学校就学前教育支援プログラム審議会を設置させていただいております。その中で幼稚園だけではなく、保育所園、認定こども園といった就学前施設全体を含めましてともに子どもたちに育みたい力をどのようなものとするのか、またその力を付けるためにどのような保育・教育をプログラムとしていけばそういう力がつくのかをこの審議会の中でご議論いただきまして、案を作成いただいていたところでございます。先程委員の皆様から小学校につながるための就学前教育としての教育の中身等のお話もございましたので、こちらにつきまして、次回の審議会におきまして資料提供させていただけたらと考えておりますがいかがでしょうか。

(委員長)

資料提供をよろしく申し上げます。こういうものを参考にしながら議論ができたらと思います。

資料からも家庭で子どもの数が少なくなっていることが伺えます。つまり兄弟があまりいない。だから兄弟げんかもできない。兄弟げんかは悪いことではなくて社会性のあることです。子どもの数が少なくなることによりケアが行き届くとか目が行き届くといった良い面もございますが、一方でマイナスの面があると思われ、集団の保育の中で子どもの数が減ってくることによって今後課題になると思われること、あるいは地域でのことなど伺えたらと思うのですがいかがでしょうか。

(委員)

先日、幼稚園に行かせていただいたのですが気になる子どもが何人かおられました。保護者に対しお子さんが小さい子や同じくらいの年の子と遊ばれますかと尋ねると、今年は新型コロナウイルス感染症の中で、外には出にくかったのかもかもしれませんが、公園にもあまり行っておらず、同じ世代の子どもと遊ぶことができないとのことでした。家庭にあっては、やはり子どもと子どもが係わる中で成長する部分はたくさんあると思います。大人は手を貸してしまうことがあります。子ども同士は手を貸したり貸されたり、泣かせたり泣かされたりする中であって成長していきます。そういう過程が踏めなくなっているというデメリットがあるのではないかと最近実感しています。是非とも幼稚園に入るまでに自分の子どもといっぱい遊びに行ってくださいとお願いしているところです。一人っ子、兄弟が離れている等、小さい子どもが以前とは少し変化した状態で育っていくことが増えてきているのではないかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。他に少子化による変化、子どもの仲間関係とかで何かございますでしょうか。

(委員)

少子化もありますし、また社会状況といいますか、SNS のいろいろなコミュニケーション手段の変化、それから子ども達の生き抜く上でのうたれ弱さというか、そういう部分はすごく感じています。一つのこととしては、少子化による家族環境が変わってきていることは大きいと思います。考える力の育成の中でコミュニケーション力であったり人を思いやる気持ちであったり一面的なとらえではなくて、例えばその手段としてディベートもやってるのですが、ディベートだったら根拠を持って、その意見を主張するのですが、相手を否定するのではございません。そのような理解をゲームを通して今年度始めているところでございます。このような意見の交換というものは、自分の思いをみんなで話したり、他人の思いを受け入れたり認めたりするのですが、根拠を持って議論するような経験というものはあまりしてこなかったもので、こういう活動も楽しめるような場面は出てきています。こういったいろいろな手段で子どもたちはコミュニケーションを取るようにしていかないと、ほんとに一面的なコミュニケーションだったり、メールに感情だけぶつけるような文章を打つとかそういうことはすごく増えていると感じています。

(委員長)

ありがとうございます。この審議会は寝屋川の市立幼稚園・保育所の在り方に関する審議会ですので、家庭での子育てを委員がおっしゃってくださったように、

子どもが長い目で見て寝屋川市で健やかに育っていくのに幼稚園・保育所はどういう風にあったらいいか、大きく言うとそういうことを検討する審議会で、そしてそれだったら市立の幼稚園保育所はどういう風にあったらいいかを考える審議会だと思えます。家庭で十分にできないことを就学前施設で補完し、家庭でもそれを受け取って一緒に育てていく、寝屋川市の子育ては、そういう風にできればいいのかと思えます。町の様子として、子どもが減ってきたことについて実感していることがございましたら教えてください。

(委員)

先程委員の方々が教育面のお話をされていましたが、私は民生委員児童委員の一員として活動させていただいております、寝屋川市の子育てに関することで昨年パネルディスカッションを開催いたしました。なぜかと申しますと、若い母親や父親が寝屋川市で子育てしやすいのかどうかということで、100人の方に調査をさせていただきました。働きながら子育てすることの大変さや、泣き止まない子が住宅地でうるさい、泣かせないでほしいと言われて若い保護者は苦しんでしまうということを実感したことから、舞台の上でパネルディスカッションを行い、赤ちゃん泣いてもいいよっていうプロジェクトを作りました。今新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか活動できていないのですが、大学の学生さんにロゴマークを作っていただいてポスターを電車とかバスにも貼っていただけるようにご協力をお願いして、快く受けていただきました。地域で子どもを育てていこう、赤ちゃん泣いてもいいんですよって、若い保護者を地域で見守り、地域で育てていこうっていう環境づくりを民生委員児童委員協議会が進めているところです。このような活動が少しずつでも一歩ずつでも進んでいけば寝屋川市に住んでよかった、これから寝屋川市に住みたいというように繋がっていったら良いと思ひ活動しているところでございます。

(委員長)

子どもが少ないとどうしても保護者は子どもに目がいて、そして追い詰められていくようなところがあって、周りの人にそのつもりはなくても見られた時に子どもが泣いていたら、保護者は周りの人に申し訳ないという気持ちになります。そういうことが何とかならないかっていうので活動してくださってるんですね。そのことが委員の方々が言ってくださったことに繋がっていると思うので、寝屋川市の教育の特徴を委員がおっしゃいましたが地域と連携をしながらやってること、そのことはすごくアピールできることではないかと思ひます。子どもの数が減っているのは、いろいろマイナス点があるのですが多くの市も一緒だと思ひます。寝屋川市独特の子育ての在り方とか、教育の在り方を踏まえて、今後審議会のタイトルであります、寝屋川市立幼稚園・保育所の在り方を委員の皆様と一緒に考えていけたらと思ひます。

他に何かございますか。

(委員)

まず一つは他の委員もおっしゃったように、寝屋川市の特徴がないとだめだということ、まさにこう言うことなのです。私は寝屋川市で小中学校まで過ごし、兵庫県に行って寝屋川市に帰ってきて、また今兵庫県に行っています。寝屋川市の教育委員会でも働いていた時期があって10年ぐらい前なのですが、丁寧に育てて目指すは全国一ということで、教育委員会の方も非常に熱心に頑張っておられました。それが今、実を結んでいる時期で、例えば全国学力・学習状況調査では、近隣市の中で上がってきています。「全国体力・運動能力調査」では、近隣市の中で1位なのですが、そのことを上手く広報できていないように思えます。委員がおっしゃるように、寝屋川市に住むとこれだけ良いことがあることを可視化しながら上手く示していかないといけないと思います。私は今、兵庫県の大学にいますが、ある市はすごくPRが上手です。上手くPRすると、どんどん人が集まるのです。どこから集まるかというところすぐ近くの近隣市から引っ越してくるのです。そうすると近隣市の人が減るのです。近隣市に話を伺う機会があましたが、近隣市では子育てに力を入れており、全体的に上がってきているので、人が集まる見込みとのことでした。寝屋川市は教育の状況がよいので、だからこそ上手くPRすればいいと思います。

あと、寝屋川市で取り組んだのは数年前まで不登校、非行、中一ギャップや小学校から中学校に上がる接続の部分がしんどいところもあり、先程委員がおっしゃったように幼稚園保育園から小学校1年生に上がる時も小1プロブレムがございいます。私は大学で生徒指導を専門にしていますが、そのあたりの研究を市でやっていくと、もしかしたら少子化とかの対策になるのではないかと思います。子どもの環境は明らかに昔とは変わっています。インターネットの調査の委員をしてるのですが、平成29年の4歳児のインターネット使用率は37%、翌年その子どもが5歳児になったら使用率は68%になっているのです。子どもたちの家庭での遊びが鬼ごっこであるとかビー玉とかからiPadで動画を見るといったように、子どもの遊びが変わっています。文部科学省の教員研修も担当してるのですが、そこでの一例としまして小学校一年生の先生が保護者から、うちの子がみんなから逃げ回られてタッチもされなくてずっと一人で笑われていると、よくよく聞くとそれは鬼ごっこなのです。鬼ごっこなんかいじめだ、禁止した方がいいと複数の先生が言われています。鬼ごっこをしたことがない乳幼児期を送ってきてる子が多いのです。このように、明らかに課題が変化していて、そのことを皆さんはたぶん感じておられると思います。そのような中、今何をするかっていうのは非常に重要でインターネット時代の子ども、インターネット時代の子育て、これは否定してもしかたがないので、そういうインターネットをよく知っているお父さんお母さんがこれからは子育てを行います。だからそれらのことを上手くミ

ックスして考えていく必要があるのではないかと思いました。

(委員長)

ありがとうございました。寝屋川市の取組を委員はよくご存じなのでまたご意見を頂戴したいと思います。その他、ご意見等ございますか。

本日は資料の内容を基に課題の共有をさせていただきましたが、他にご意見等がないようでしたら、これを持ちまして本日の審議会を終了いたします。最後に事務局から連絡事項あればお願いします。

(事務局)

事務局からの報告連絡事項でございます。次回の審議会の日程でございますが12月の下旬ごろの開催を予定しております。委員の皆様は年末の折、御多忙とは存じますが後日日程調整をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

(委員長)

ありがとうございました。熱心なご意見を頂戴できて充実した時間だったと思います。本当にありがとうございました。

(閉会)